



### 順正学園高梁キャンパスの紹介

順正学園は、学生だけでなく市民の皆さんにもご利用いただけるよう、広く施設を開放しています。今回は順正学園高梁キャンパス内にある施設を紹介します。



#### ①高梁市子育て支援センター「ゆう・ゆうひろば」

短大9号館（平成24年度からは専門学校介護福祉学科棟）1階です。平日の午前10時から午後4時まで利用でき、駐車場もあります。詳しくは高梁市子育て支援センターまで。（お問い合わせ先 高梁市子育て支援センター 電話：0866-22-2450）

#### ②国際交流会館食堂「エスペランサ」

3月末までは、イタリア人シェフのアレージ・ジョルジョ氏によるランチが食べられます。営業時間は午前11時30分から午後2時30分です。数量限定のため、売り切れの場合はご了承ください。なお、ランチをご利用される場合は国際交流会館前に駐車できます。国際交流会館内には他にも売店、書店（※いずれも時期によっては営業していない場合あり）もあります。（お問い合わせ先 順正学園 電話：0866-22-3517）

#### ③吉備国際大学附属図書館

吉備国際大学2号館、10号館、14号館の3か所にあります。一般の方のご利用について、貸出は行っておりませんが、図書・雑誌の閲覧と著作権の範囲内で複写をすることができます。平日の午前9時20分から午後5時までご利用可能です。（※時期によって開館時間が異なります。詳しくは吉備国際大学附属図書館ホームページ <http://library.kiui.ac.jp/> またはお電話にてご確認ください。）（お問い合わせ先 吉備国際大学附属図書館 電話：0866-22-7871）

■問い合わせ 順正学園入試広報室 (☎)7178、FAX (☎)0768

## 成羽病院通信

### ～地域の皆さまと共に～

3月に入り吹く風も暖かく感じるようになり、クロッカスや水仙の花が周辺に明るい彩りを放っています。また、卒業、入学の言葉を耳にすると、病院での新たな年度のスタートに気持ちの引き締まる思いがしています。

当院では、昨年より、病院ボランティアを募集したところ、多くの方にご参加いただき、現在は、週一度お花を生けていただいています。野に咲く花を、院内の各所に飾り、季節を感じていただくことにより、少しでも患者さんの癒しになればと思います。患者さん同志、「これは何の花?」「もう水仙が咲くんですね」と花を話題に会話の輪が広がる場面を目にし、病院が地域の皆様のコミュニケーションの場になることを再認識しました。



手作りのおひな様がたくさん並んでいます

また、患者さん手作りの展示コーナーを設けており、患者さんから、展示用に作品を届けていただいています。作品を見られた患者さんの中には、自分も作りたいとメモをとられている方もおられます。成羽病院も夏には完成予定です。新病院においても、広く病院ボランティアや作品展示をお願いすることにしていますので、お気軽にご連絡ください。今後、さらに地域の皆さまと共に歩み、親しまれ、信頼される病院を目指してまいります。

成羽病院 総看護師長 芳賀 佳子

■問い合わせ 成羽病院事務局 (☎)3111

# 地名をさぐる

## 八十一 松原町 西野々



「西野々」中筋方面のくぼ遠景

「西野々」という地名は、松原町松岡にある地名で、江戸時代から明治八年（1875）まであった「西野々村」という村名でありました。今でも地域の人々は「西野々」の地名を使って呼んでいます。明治八年に

は、隣にあった「割出村」と合併して、「松岡村」になっています。東には、春木（拙稿「地名さんぽ」II「春木」参照）や大津寄（同「地名さんぽ」II「大津寄」参照）、西には、宇治町宇治や成羽町羽山が、南には、落合町福地（地名さんぽII「福地」参照）が、そして北には、陣山（五九八・七）がそびえています。松岡付近は、老年期の吉備高原面にあって、標高四〇〇〜五五〇メートルの起伏の高原上に村が散らばり集落が点在しています。くぼには水田が開け、丘の部分には山砂利層（礫層）が分布して赤土が多く、畑作に利用されています。付近には「追」とか「ソネ」「野呂」などの地名が見られ、吉備高原の地形の特徴が分かるのです。このような高原の地形を野呂地形と呼んでいます。北の陣山のすその県道沿いには、市内で最古の旧石器群（サヌカイト（安山岩製の石槍（やり）・スクレーパー（石の側ふちや端に刃を付けた石器）と縄文時代早期（一〇〇〇〜六〇〇年前）の遺物（押型文土器や羽縄文土器など）が出土している）が注目されています。

「成羽八幡神社旧記」（万治二年一六五九）大元八幡宮司「渡辺家文書」（成羽町史）に「西野々村」は「荒巻」と云道具を取て還りければ、荒巻八幡と奉り」とあり、戦国期の成羽庄六カ村の一つであったといわれています。毛利氏の支配から慶長五年（一六〇〇）から幕府領となり、元和三年（一六一七）には松山藩領、元禄六年（一六九三）には再び幕府領、同八年には松山藩領と支配が移り変わっています。

「備中誌」によると「西野々村」石高六七八石余りとあって「天保郷帳」（天保五年一八三四）でも六七八石余りになっています。嘉永六年頃（二八五三頃）の記録によると家数五八軒、人数一八四人で「西野々村」東西七町、南北二町だったと記録されています。また「備中村鑑」（万延元年頃一八六〇頃）によると「板倉周防守様御城下松山」として「西野々村大庄屋東財次郎 六七八石余り、割出村庄屋藤井恵佐太 六一五石余り」としています。庄屋の東財次郎は割出村の庄屋を兼帯していたのです。

（文・松前俊洋さん）